



平成 15 年 6 月 10 日  
スカイマークエアラインズ(株)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

平成 14 年 12 月 19 日に公表した平成 15 年 10 月期(平成 14 年 11 月 1 日～平成 15 年 10 月 31 日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 記

#### 1. 業績予想

(1)中間期(平成 14 年 11 月 1 日～平成 15 年 4 月 30 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14 年 12 月 19 日)	8,900	520	520
今回修正予想(B)	8,760	1,060	1,260
増減額(B-A)	140	540	740
増減率	1.5%	- %	- %

前期実績 (平成 14 年 4 月期)	6,357	784	759
------------------------	-------	-----	-----

(2)通期(平成 14 年 11 月 1 日～平成 15 年 10 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成 14 年 12 月 19 日)	19,800	110	80
今回修正予想(B)	22,450	430	640
増減額(B-A)	2,650	540	720
増減率	13.4%	- %	- %

前期実績 (平成 14 年 10 月期)	15,401	1,116	1,090
-------------------------	--------	-------	-------

## 2. 修正の理由

当上半期におきましては、日本経済は引き続き不透明な中、更にイラク戦争、SARSの影響による国際のみならず航空運送事業全体への影響もあり需要は弱含みの状況で推移して参りました。

当社におきましては、平成15年2月に使用航空機の構造部に亀裂が発見され安全性確保のため所有機の点検ならびに修復を行い、結果として115便もの運休を余儀なくされました。この中において営業努力により前期を上回る輸送実績を確保し、また貨物収入の増加と「東京 - 福岡線」の増便による営業収入が増加し、前回発表予想より減収は1.5%に留めることができました。

しかしながら、経常利益につきましては、新路線「東京 - 青森線」及び「東京 - 徳島線」の初期導入コストが先行発生した半面、収益につきましては6営業日しかなく、利益に貢献出来ませんでした。純利益につきましては、上記運休期間中における旅客の他社への振替輸送費ならびに機材修理費等による費用総額約2億円が発生し特別損失として計上しました。

その結果、前回発表予想を中間期においては売上高につき約1億円、経常利益につき約5億円、当期純利益につき約7億円下回る見込となりました。

下半期におきましては、平成15年4月よりの新路線の就航により既存2路線(東京 - 福岡線、東京 - 鹿児島線)との相乗効果及び航空貨物事業の更なる展開により増収を図ると共に、路線拡充によるコスト削減効果を得て6億円の純利益を計上する計画であります。

通期におきましては、上半期末に就航を達成した新路線の事業計画値をはじめとして、新経営体制のもと収益計画及びコスト計画の大幅な見直しを行い、売上高を26億円上方修正し224億円と見込みますが、上半期までの損失を吸収しきれず、経常利益につきましては約5億円、当期純利益につきましては約7億円下回る見込となりましたので、ここに前回発表予想の下方修正を報告いたします。

## 3. 今後の対応

下半期におきましては最大需要期である夏期繁忙期での更なる増収を図ると共に、新規、青森・徳島路線の早期定着化、貨物・郵便事業の拡大ならびにスケールメリットによるコスト削減により通期損失額を可能な限り少なくすることに最大限の企業努力を行うことといたします。

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上